

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成20年12月4日 (2008.12.4)

【公表番号】特表2007-536583(P2007-536583A)
 【公表日】平成19年12月13日 (2007.12.13)
 【年通号数】公開・登録公報2007-048
 【出願番号】特願2007-511793(P2007-511793)
 【国際特許分類】

G 0 9 G 3/36 (2006.01)
 G 0 9 G 3/20 (2006.01)
 G 0 9 G 3/34 (2006.01)
 G 0 2 F 1/133 (2006.01)

【F I】

G 0 9 G 3/36
 G 0 9 G 3/20 6 1 2 U
 G 0 9 G 3/34 J
 G 0 2 F 1/133 5 0 5
 G 0 2 F 1/133 5 3 5

【手続補正書】
 【提出日】平成20年10月15日 (2008.10.15)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 1 6
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 1 6】

以下の記載は、第一変調器が後置変調器 1 2 を備え、第二変調器が前置変調器 1 4 を備える、図 1 の例を参照する。しかし、本発明に従うシステムは、第一変調器が第二変調器を照射する任意のタイプの二重変調表示システムに関連して利用されてもよいことは理解されるべきである。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 2 5】

プロセッサは、ブロック 2 1 6 で生成される現在のフレームの前置変調器用信号と前置変調器駆動回路 1 8 の適切な値の範囲との比較に基づいて、主要フレームが更新されるべきか否かをブロック 2 1 8 において判定する。このような比較は、現在のフレームの前置変調器用信号が前置変調器駆動回路 1 8 の適切な値の範囲外にある画素（本明細書では、「問題画素」と呼ぶ）の数を、プロセッサが記録することで画素毎に行われる。プロセッサはまた、問題画素の位置を記録してもよい。プロセッサは、問題画素の数が所定の閾値を越えたとき、主要フレームが更新されるべきであることを判定する。別例では、問題画素が適切な値の範囲外であることによる平均値が所定の閾値を越えた場合、問題画素が適切な値の範囲外であることによる累積値が所定の閾値を越えた場合、又は個々の問題画素が、所定の閾値を超える適切な値の範囲外にある場合、プロセッサは主要フレームが更新されるべきことを判定する。